

書くことのでかかわりを知る

—子どもの日記と作文から読み取る—

① 学級の核として、確かな学力と文集を考えて、一番最初の学級通信で文集の記載に関して了承を得ました。でも、最初の「はじめてかいたなまえ」や「みんなの『あ』」を載せた後、「やっぱり他の子と比べてしまふ。」と保護者に言われたことと、忙しさに忙殺され文集は途切れがちで、続かないでいます。しかし、たまに出す文集を喜んで聞いている子どもたちの姿を見ると、やっぱり子ども同士で読み合うことは、お互いの良いところを知る大切な学びの時間だと実感します。わたしが、みんなの前で読んでもあげると恥ずかしそうな表情をしますが、文集にすると誇らしげな表情になるのです。やっぱり、文集のもつ力です。頑張らなくてはと思います。

何をどう書かせてきたか

① 生活科の授業の中で文章を書かせてきました。「何を書く」が明確なので、どの子も書けるように、「大きさ」「色」「形」「数」「願い」など必ず書く項目を提示してやると、一つ一つを思い出しながら書くことができました。

② 文字指導に併せて、文章を書かせました。毎時間ということではできませんでしたが、「あ」を覚えたら「あ」からはじまる文章。「あさがおがさいたよ。」「い」をおぼえたら「いいないいな〇〇っていいな」というように続けていきました。残念ながら、五十音全部を書かせる時間はなく、ことある度に書く時間をとる

ようになっていきました。

③ 国語の物語教材で吹き出しを書かせながら、その場面で気持ちを考える学習を繰り返してきました。書いた物を文集にして読み合ったり、聞き合ったりするのがとても楽しそうでした。書く時、「読んで、読んで。」と先を争って持ってきました。その学習を通して、場面に身を置く練習になったように思います。

④ 十一月の学芸会の後、はじめて原稿用紙に、題、氏名を書き、原稿用紙の使用方法を覚えながら、順序を意識しながら書かせたいと思い、「ステージが上がったところから」書かせました。また、「順序よく」という意識が薄く、書いているうちにその時その時思い浮かんだことを警めている子の方が多かったようです。ただ、蓄きたい分書いているということ、どんどん書いていった子もいました。

⑤ また教科書の「しらせたいな、見せたいな」の単元は、学校で飼育しているハムスターなどの小動物のことをうちの人に教えようという設定になっているのですが、南光台小学校では小動物は飼育していませんので、うちで飼っている生き物やおうちの人をみんなに教えようという設定に変えました。教科書と同じように、小さい紙に絵を描かせ、参考になる色や形、性格などを書き込ませて構想メモのようにしました。生活科の記録の経験もあり、どの子も意欲的に取り組みましたが、やはり書いているうちにその時その時思い浮かんだことを書いている子の方が多かったようです。

⑥ 順序よく楽しく書く事を取り立てて授業をしなくてはいけないと思いましたが、たまたま買いたった先で、とても大きいザクロを見つけて、これで授業を

することにしました。

一、二時間 ザクロを見てきわって聞いたところまで

三時間 ザクロを切ってもらって、食べる前まで

四時間 分けてもらって食べたところまで

⑦ 日記を始めました。

「あのねちよう」をつかったので、一番最初は「先生に教えたいことを何でもいいよ。」と言って、ただ書かせました。赤ペンを入れて、「みんな上手だったよ。」と言って返しました。

次は形式を教えました。書いた日にち、題、氏名、一ます空けて書き始めるなどです。

何を書くか迷っている子もいましたので、「歯が抜けた時は教えてね。」「ちゅうしゃした時は教えてね。」と声をかけました。

書けないという子には、無理をしないで「今度教えてね。」と赤ペンをいれました。

「続きを書きたい。」と子どもが言ったときは、うちに持ち帰らせましたが、基本的に学校で蓄かしています。何回かしたら、家庭で書いてほしいと願っていますが、いろいろな家庭環境にあるので、できるだけ学校で書く時間を作っていききたいと思っています。

読んだ子が、「あ、わたしもしたことある」とか、「今度わたしもやってみたい」と共感したり、友達の新しい面に気づかされていきます。こういう積み重ねが、大事だと思うのです。先入観にとらわれず、事実や自分の体験の中で、者えたり感じたりできるようになっていつてほしいと思っています。子どもと先生のかかわりや、子どもと子どものかかわり、子どもと家族のかかわりを書く事によって、人の中で育っている自分を認識し、よりよく生きる手がかりになって

いくのではないかと思っています。

かきごおりをたべたよ

Y

かきごおりパーティーをしたよ。しゅうとくんが ごおりを くれたよ。二こくらい くれたよ。しゅうとくんが まわしてく

二はい たべたら、べろが あおくなったよ。とても あまくって おいしかったよ。

一ばんにたべたのが ゆうりだよ。となりの ゆうたくんは 二ばん目にやったのに、ぜんぜん たべていなかったよ。

そうたくんの かきごわりの きかいを かりたよ。ゆうたくんの べろを見たら 水いろだったよ。

すごく つめたかったよ。

かきごおりをたべたよ

Y

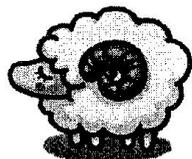
はるまくんが かきごおりきを まわしてくれたよ。ブルーハワイの しるを かけたよ。

となりの はるまくんの べろを見たら、あおくなってたよ。

かきごおりを たべて、うれしかったよ。

ゆずの べろが かなへびみたいになったよ。

こひつじ



2011. 1. 11

No. 1 1

かわいい年賀状ありがとうございました。冬休みが終わわり、新しい気持ちで、また頑張ろうと子どもたちに話しました。一年生のまとめの大事な二か月半です。担任も気を引き締めて頑張ろうと思います。昨年から、算数で使う箱集めをお願いしていました。紙袋に入れて、持たせてください。また、来週は生活科で冬の遊びをする予定です。おうちにある人だけでいいですので、かるたがあれば持たせてください。

しらせたいな、見せたいな！

①

かえる

M

ぼくのうちには、かえるがいます。いろは、上はみどりいろで、おなかのいろは、しろです。おなかがかすくと、なきます。せなかのところは、ざらざらしている。大きさは、手にのるくらいです。さわると、ざらざらしています。そろそろとうみんします。

いもうとの ゆうな

K

わたしのいえには、「ゆうな」というなまえのいもうとがいます。ほっぺをさわると、ふわふわして、きもちいいです。かみをむすぶとお花みたいです。ひらきます。はしると、はやいです。ときどき、うたいます。

Mくんは、つかまえたかえるをいまもたいせつに
かっているそうです。ふゆになり、いまはとうみんし
ているのでしようね。はるになるのがたのしみです。

Kのうにきさんは、いもうとのゆうなちゃんが大
さんがつひらくかみです。ふわふわのほっぺも、は
さんのことが大好きです。きつと、ゆうなちゃんも、

とのねまばった

S

ぼくの いえには、とのさまばったという ばったが います。その ばったを さねると ふにやふにやしています。でも、もっている、あしを うごかして、ばねみたい に びよんびよん あしを うごかします。あんまり さねると しんじやうから、あんまり さねれませぬ。一びきじやなくて、二びきいます。かおの 口から ちゃいりい しるみたいなのを 出します。おせわも します。はねを見ると、とんじやいそうだから、すぐに かごにいれます。いろは ちゃいりいだけど、ちよつとだけ みどりっぽい です。大きさは、手のはんぶんくらいです。目の下が くるくなくなっています。



おしははのSくんは、左足のはったではなく、右足のねまばった「あかっけい」なんです。ねまばったを手に持って、「ていねい」にあつかっているのがよくわかります。

ちもうとの のどか

N

ぼくの ちもうとは のどかという なまえで、一さいです。かおは まるくて 手は ふといです。あさは 六じまえに おきます。みみは やわらかい です。

「のどか おいで。」

という と ある きますよ。大 すすきです。おちきは 十キ口です。ぼくと いっしょに おえかきを します。とって おかわい いです。ちもうとの ことが 大 すすきです。あしは、ハム みたい です。ちもうとは ある けます。たまに は じつたり しています。ぼくの あとを ついて きます。「ちようだい」の れん しゅうを いまは しています。がんば っています。ぼくは、おうえんを しています。がんばって ください。



Nくんは、ちもうとのどかちゃんのことですが、かわいくてかわいくてしかたがないですね。おりがみで「十口」をおつたとき、のどかちゃんに「あし」をさすとき、おしえてくれました。のどかちゃんがよくしゃべっているのを、さつと「ちようだい」のれんしゅうをさしているのを、さつと「おちくんは、やさしい目で見ているのでしょね。」